20
2010.5

薬友会報

千葉大学薬友会

思い出深い「入試の鐘」

西千葉キャンパス風景

亥鼻第二期棟工事始まる

薬友会長挨拶 …… 2
副学長挨拶 …… 2
新任のご挨拶 …… 3
西千葉今昔物語－入試の鐘の音を覚えてますか … 3
千葉大学薬学部創立120周年記念事業ご支援のお願い … 4
6年制実務教育の実質的な始まり－薬学共用試験（OSCE、CBT）を終えて …… 5
大学院GP「世界規模の治験・臨床研究を担う医療人育成」プログラムを終了して …… 6
研究室紹介 …… 7
オープンキャンパスと薬学部志願者について … 8
クラス通信 …… 8
ゐのはな山岳会50周年を迎えて …… 13
サークル紹介 …… 13
学部だより …… 14
受賞等 …… 14
博士学位授与一覧 …… 15
教員の異動 …… 16
薬友会より …… 17
薬友会セミナー …… 18
編集後記 …… 18

薬友会長・研究院長挨拶　「伝統と革新」

西田　篤司

平成22年度薬学研究院長に就任いたしました西田篤司と申します。平成8年に薬品合成化学研究室の助教授として赴任して以来、お世話になっております。平成22年度は私どもの薬学研究院にとって新に記念すべき年になろうかと思います。

まず、平成23年（2011年）春には医薬系総合研究棟第二期棟（仮称）が建築され薬学研究院の研究室はすべて亥鼻に移転することとなります。平成16年（2004年）に医薬系総合研究棟第一期棟が完成し薬理・生化系及び医療系12研究室が亥鼻地区に移転しました。その後、第二期棟新営の申請を継続してきたにもかかわらず認めていただけず、これまで講義・実習を亥鼻・西千葉両地区で行うことになり学生・院生諸君に大変な負担を強いてきました。また、西千葉地区に残った研究室に所属する学生・院生諸君は老朽化した校舎、劣悪な環境において研究活動せざるを得ず不公平感をもった学生も多かったことと思います。合同の会議をするにしてもご不便を御かけして参りました。今回、このような不便さを解消し、新たに亥鼻地区にて一丸となって研究・教育に邁進できることは大きな喜びです。薬学6年制教育も5年目に入り新たな実務実習が行われます。高度な薬剤師の養成に向けて医学部，看護学部，付属病院との連携の基に教育の充実を進めていきたいと思います。同様に４年制卒業生を中心にした、研究者養成教育の充実にも尽力しなければなりません。

もう一つのトピックとして千葉大学薬学部が明治23年（1890年）に第一高等中学校医学部薬学科として創立以来、120周年を迎えます。記念すべき年を迎えるにあたり薬学研究院では昨年、千葉大学薬学部創立120周年記念事業会を立ち上げ、準備を行って参りました。記念誌の発行，記念講演会，祝賀会などを予定しております。更に、前述の医薬系総合研究棟第二期棟に約300名収容規模の記念講堂の建設も計画されております。事業内容は既に卒業生の皆様にはご連絡し、また寄付を募っているところであります。既に多くの卒業生など薬友会員よりご寄付を賜っておりますが、更に一層のご支援を御願いいたしたいと思います。120周年記念事業の内容は薬学部ホームページにて確認できます。したがって本年度は西千葉キャンパスにおける薬学研究院最後の年になります。研究室、同窓生でお集まりいただき、旧交を温める機会にしていただければと思います。

これまでの千葉大学薬学部の素晴らしい120年の伝統を礎として、さらに新しい実績を積み上げるべく亥鼻地区に新たな研究・教育拠点を築きあげていきたいと思っております。薬友会員の皆様の厚いご支援をお願い申し上げます。

理事・副学長再任挨拶

山本　恵司

平成20年４月から齊藤康学長のもと、千葉大学理事(企画担当)・副学長を努めてまいりましたが、22年４月より２期目の理事・副学長を命じられ継続して任にあたることとなりました。国立大学が法人化して６年が経過し、本年４月から第２期の中期目標計画期間に入りました。これまでの２年間は千葉大学の今後６年間の中期計画策定作業に当ってきましたが、４月からはその実行の責任も負うことになりました。

現在の国立大学の直面する課題、キーワードは①国からの財政支援の漸減(千葉大学では毎年1.5－２億円の削減)、②少子化による学生数減と私立大学増設による入学者確保の困難(本薬学部では表面化していませんが、他大学・本学他学部では深刻です)、③世界の流れとなったグローバル化への喫緊の対応（若者が外国で学びたがらない、高等教育修了者の国際流動性が極めて低い)、④教育の質の保証と学位(学部･大学院）の国際レベルの確保(日本の学位が世界で低く評価されていないか）などがあります。我が国では高等教育が社会の変化に真に対応できず、十分に高い質を保ち得ていないとの指摘があります。大学とは何かという概念の希薄化，十分とは言えない高等教育の経済的基盤など、大学も日本経済と連動して危機的状況にあります。現状を改善し高等教育を時代の牽引車として社会の負託に応えるものへと変えていくことに微力を注げればと思っております。

優れた人材の養成と科学技術の振興は社会の発展のため不可欠です。グローバル化する世界での中で多くの人々と協調して、次世代に向けた新しい価値観や文化の創生が千葉大学から、また千葉大学薬学部から発信できることに残り少なくなった現役の期間を有効活用したいと思っています。

新任のご挨拶　　黒川　達夫

４月１日薬学研究院に新しく設置された国際臨床開発・規制科学講座（寄附講座）の客員教授として同日赴任致しました。前身は平成19年度から３年計画で本学に設置された大学院ＧＰ「世界規模の治験・臨床研究を担う医療人育成」であり、さらに継続発展させる形で本講座が生まれましたことは、同大学院ＧＰ特任教授であった小職として喜びも一入のものがあります。これも本大学院およびご関係各位のご理解とご支援の賜であり、またともに活動し職員の方々や学生諸君のご努力のおかげと深く感謝しております。

医薬品は優れた国際的な商品であり、良い新薬ができれば世界から求められます。また医薬品は薬学をはじめとする諸科学とそれを支える優秀な人材により創製されます。その際、将来の画期的な医薬品候補を実際の医療の場で使用して戴けるよう整えるには、各種臨床試験による医薬品プロファイルの明確化や医薬品製造販売承認の取得などが欠かせないプロセスになります。従来わが国では、世界的にも指導的な位置にある基礎科学の実績・基盤に比べ、この部分はややもすると後回しにされやすい領域になっておりました。一方で、薬学や生命科学の発達はきわめて迅速であり、また一つの新薬を開発するための費用や時間も大型化する中で、これら急速な進歩と変化に相応しい医薬品評価や開発戦略の策定が強く望まれています。

本講座は、国際的な視点に立ち、医薬品臨床評価、市販後の安全性の確保、開発戦略や規制の仕組みあり方などについて研究教育を進めることを目標としています。さらに積極的な国際的枠組みへの参画や千葉大学薬学部発の企画と提案なども計画的に行い、同時に公衆衛生の視点からの提案や、患者・被験者の人権保護、健康確保などについてしっかり教育と研究を進めたいと考えております。まだ生まれたばかりの講座ですが、今後とも職員一同精進を続ける覚悟でおりますので、本学ご関係の各位のご理解と一層のご支援をお願い申し上げます。

西千葉今昔物語－入試の鐘の音を覚えていますか

病院薬学研究室　石井伊都子　（S63 卒）

2010年のバンクーバーオリンピックは、浅田真央の「鐘」が話題を一身にさらい、終始我々の心に響き渡った。「鐘」と言えば千葉大学薬学部にも立派な「鐘」があることを、皆さんは覚えているだろうか。入学試験のとき、突然どこからともなく鐘が鳴り、答案を書き始めた記憶のある卒業生が沢山いらっしゃることだろう。私の場合も、試験の始まりの合図は校内放送から流れるチャイムに違いないと思い込んでいたところ、不意にどこか懐かしい思いを起こさせる鐘の音が鳴りだし、「なにコレ？」と一瞬息を飲んだ記憶がある。もし、監督の先生が「はじめ」と言って下さらなかったら、鉛筆も持たずにぼっとしていたに違いない。

そもそもあの鐘はどこからきたのか。書面としての記録は無いが、複数の先生方や先輩方の記憶を併せると次のようなストーリーが出来上がった。昔の入学試験は呑気なもので、学部によって早く始まったり遅く終ったりと独自の時間割で試験を行っていた。しかし、それを同じチャイムの音で知らせると大学全体に混乱を来すという理由で、薬学独自の鐘を持つに至った。また、あの鐘の音は薬学部の音（ね）ですよ、ということを他学部も周知していたようである。あの鐘の音を西千葉キャンパスに旧猪之鼻（現亥鼻）キャンパスで聞いたという学生とそうではないという学生は半々であり何時から導入されたかは定かでなかった。薬学の鐘の音は千葉大学薬学部への登竜門であり、鐘は多くの受験生に「入っておいで～！」と長い間叫んできたのである。特注品の鐘を鳴らす名人がいた。薬学の庭の手入れしていた白井さんであり、多くの卒業生の記憶に残る人物である。彼が退職後、複数の人が鐘を鳴らしてみたが、白井さんが奏でたいたような味のある音は出なかった。私も試験監督をしたときトライしてみたが、やらなければ良かったと今でも後悔しているほど音痴だった。

その鐘も今年の入試からは姿を消した。昨年の入試のときに、振鈴に小さなミスがあったからだ。電波時計の普及も手伝い、一分一秒の狂いもなく試験を実施することが要求される現代、均等、一律を課せられることも不思議ではない。屋根飾りが時代を超えて我々のシンボルになっているように、あの鐘も新しいキャンパスで新しい響きを奏でるかもしれない。大切にかかえ、新校舎に引っ越す予定である。（表紙に写真）

千葉大学薬学部創立１２０周年記念事業ご支援のお願い

千葉大学薬学部はその前身である第一高等中学校医学部薬学科が亥鼻ヶ丘に明治23年7月設立され、本年創立120周年（大還暦）を迎えます。奇しくも平成21年度補正予算で念願の校舎新営が認められ、平成22年度末には薬学部発祥の地、亥鼻キャンパスへの完全移転が完了する運びとなりました。この節目の年に、本学部は新時代の薬学部として更なる前進を目指すべく教職員一同決意を新たにしております。

薬学部創立120周年を記念し、薬学部亥鼻キャンパス完全移転完了に伴う教育･研究の活性化と環境整備に資する事業遂行のため、薬友会並びに薬学研究院を中心として事業会を立ち上げご支援のお願いを平成21年11月より実施しています。現在、亥鼻新校舎新営の本体工事も着工し、1階部分には写真１のような「薬学部創立120周年記念講堂」を設置し、講義、卒後教育や学会活動に広く利用したいと考えております。この記念講堂の内装・映像音響設備関係は、本記念事業として整備する予定です。薬学部創立120周年記念事業に相応しい施設とするため3千万円の予算を計上し、利用機会の多い現職教職員には応分の負担をお願いしているところです。同窓諸兄姉におかれましても一層のご支援をお願いする次第です。また、本年4月1日からは法人格のご寄附も免税処置で取り扱えることとなりました。法人様のご寄附も歓迎しています。

ところで、平成22年２月25日現在351名の個人の方々からご支援を戴いており、同窓生からのご支援者数は298名です。平成21年度までの卒業生は4,340名ですのでご支援賜り率は6.9％ですが、現役世代である昭和45年以降（学生定員1学年80名）にご卒業された方々（振込率4.1％）に比べ、それ以前の卒業世代（学生定員1学年40名）の方々からのご支援が極めて多く（振込率17.3％）、現時点では4倍以上に達しています。現役世代同窓生諸氏のより一層のご支援をお願いする次第です。以下、趣意書の一部を抜粋致します。ご支援は何度でも歓迎致します。本薬友会報に振込み用紙を同封させて頂きました。何卒、宜しくお願い申し上げます。

一定額以上のご支援（個人：10万円以上、法人：50万円以上）を賜わりました方々への謝意の表明として、けやき会館1階ロビー並びに薬学部校舎１階のしかるべき場所にご芳名を刻印した銘板を掲示させて頂きますとともに、ご芳名を千葉大学(薬学部)ホームページに掲載させて頂いています。更に、平成23年初夏に開催予定であります記念講演会にご来賓としてご招待させて頂きます。けやき会館掲示の銘板の大きさは、ご寄附金額に応じて下記のようになります。

単位：万円

謝　　意	個　人	法人・団体
銘板の掲示（小）100×30×２　（希望者）	１０	５０
〃　（中）200×30×２　（　〃　）	５０	２００
〃　（大）200×60×２　（　〃　）	１００	５００

クラスやサークルとしてご支援いただく場合は法人扱いとなります。この場合、けやき会館掲示の銘板は法人・団体扱いの規格となります。但し、薬学部新校舎掲示の銘板だけは学年・クラス・サークル単位のご寄附であっても上記個人扱いの規格で新校舎のしかるべき場所に掲示させて頂きます。奮って、クラスや有志・サークル単位のご寄附をお待ち申し上げております。（この場合、振込用紙の法人欄にチェックをお願いします。）募金期間は平成24年3月31日までです。お振込みには同封の「千葉大学SEEDS基金」（寄附目的として薬学部創立120周年記念事業の表示のある用紙）の振込用紙をお使い下さい。郵便局･銀行のどちらからでもお振込み頂けます。領収書は、４週間以内に寄附申込書または払込依頼書にご記入いただいた住所・氏名にお送りさせて頂きます。
なお、寄附者を特定できなくなる恐れがあることから、ＡＴＭ・ネットバンキングでのお振込み及びクレジットカードでのご寄附はご遠慮下さい。

記念事業として、以下の事業を計画していますが、少なくとも５千万円の事業費が必要となります。何卒、より一層のご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

薬学部創立120周年事業の内容（カッコ内は当初予算額）

1.「薬学部創立120周年記念講堂」の薬学新校舎内への設置（3000万円）
2. 薬学部創立120周年記念講演会及び式典の開催（300万円）
3. 薬学部創立120周年記念誌及び「千葉大学大学院薬学研究院：研究による社会貢献2010」の発刊（1000万円）
4. 薬剤師リカレント教育事業及び生涯教育事業の推進（未定）
5. 薬学部・大学院薬学研究院の教育・研究活動支援、国際交流及び勉学環境の整備事業（未定）
6. 亥鼻キャンパス医・薬・看3学部連携強化のための事業（未定）

亥鼻キャンパスは少し掘れば、いたる所で埋蔵文化財が出土します。今回の工事でも12月から３月にかけて埋蔵文化財発掘調査が行われ、多くの遺構や出土品が発掘されました。遠く古き昔より、この亥鼻の地は人々の安住の地として栄え守られてきました。今この地に、薬学・生命科学の研究拠点を得て千葉大学大学院薬学研究院が大きく羽ばたこうとしています。開学の地に薬学研究院が教育・研究拠点を構えることになろうとは、なんとも歴史の因縁を感じます。

関係各位におかれましては、何卒この記念事業の趣旨をご理解いただき、絶大なるご支援を賜りたくお願い申し上げます。まだまだ厳しい経済状況の中、誠に恐縮に存じますが、新たなる前進を目指す千葉大学大学院薬学研究院に多大なるご支援を賜りますよう、再度、心からお願い申し上げる次第です。

平成22年３月吉日

千葉大学薬学部創立120周年記念事業会　幹事長　上野光一

薬学部創立120周年記念講堂完成予想図

お問い合わせ先　〒263-8522　千葉県千葉市稲毛区弥生町１－33
千葉大学薬学部　創立120周年記念事業会事務局
TEL 043-290-2978　FAX 043-290-2974　E-mail: kab2978@office.chiba-u.jp

６年制実務教育の実質的な始まり－薬学共用試験（OSCE、CBT）を終えて－

平成18年度からスタートした薬学教育6年制は、平成21年度に4年目を迎えました。6年制薬学教育では、5年次に病院、薬局それぞれ11週間という長期間にわたり、実際の薬剤師業務を経験する参加型の実務実習を行うことになります。そこで、薬剤師免許を持たない薬学実習生が臨床現場で実習を行うための基本的な知識・技能・態度を身につけているかどうかを確認するために、4年次の末に全国共通の確認試験（共用試験）が行われます。共用試験は、知識を確認するCBT（Computer-Based Testing）と技能・態度を評価するOSCE（Objective Structured Clinical Examination）の2種類の試験から成り、両方の試験に合格しなければ5年次の実務実習を行うことができません。千葉大学薬学部では平成18年度からCBT 、OSCEのトライアルをそれぞれ数回行い、人員や設備の準備を整

えてまいりましたが、平成21年度薬学部薬学科4年次に在籍中の40名に対し初めての共用試験が行われました。

CBT本試験は平成22年1月23日に行われました。CBTは8分野から出題される合計310問を1問1分で解答してゆかなければならない精神的にも肉体的にもハードな試験です。本試験に先立ち、平成21年度9月に体験受験を行いました。体験受験は、受験生のためだけでなく、薬学共用試験センターのサーバーとの接続やコンピュータ端末の不具合のチェックなども行う事実上のリハーサルです。体験受験の後もCBT担当教員は本番直前まで薬学共用試験センターとの連絡やサーバーやコンピュータのメンテナンスなどの準備を行い、CBT当日は大きなトラブルもなく丸1日がかりで行われたCBTは無事終了しました。平成21年度が初年度だったため学生も試験勉強には苦労したようですが、後日共用試験センターから全員合格とのうれしい通知が届きました。

OSCE本試験は平成21年12月20日に行われましたが、平成21年度のOSCEは本試験よりはるか以前の6月に開催した評価者講習会から始まりました。この講習会は、OSCEの概要を理解していただくために病院・薬局の薬剤師の先生方を対象に開催したもので、県内外から120名の薬剤師の先生方が受講され、関心の高さがうかがえました。また、OSCEは実技試験のため受験生1名につき試験官を務める評価者2名が評価します。平成21年度のOSCEでは、1課題につき約10名の評価者にご協力いただくこととなったため、11月と12月に評価を担当する薬剤師の先生方と大学教員に集まっていただき、評価基準の打ち合わせ会を行うなど、多数の方々に多くの時間を割いていただきました。OSCE当日は、本学教員、事務職員の他、薬剤師会や病院薬剤師会から参加された薬剤師の先生方、模擬患者、模擬医師等、総勢100名以上の方々にご協力いただきました。評価者としてご協力いただいた薬剤師の中には千葉大学薬学部の卒業生も多数おられ、後輩たちの奮闘ぶりを温かく評価して下さったようです。ちょうど新型インフルエンザが猛威を振るっていた時期だったため、病人が出ないかと心配しましたが、受験生、スタッフ共欠席者はなく、朝10時過ぎから夕方4時前までかかったOSCEは大きなトラブルなく終了し、全員合格することができました。モニターとして参加された他大学の先生からも、準備が行き届いており、試験も順調に進行して良かったとの講評をいただきました。

上記のように、共用試験は何年も前からの準備と多くの協力者の力がなくては行えません。ご協力いただきました方々には紙面を借りて厚く御礼申し上げますとともに、平成22年度以降も引き続き共用試験へのご協力をお願い申し上げます。

また、平成22年度より5年次学生に対し長期実務実習が始まります。共用試験で「お墨付き」をもらった学生は自信を持って長期実務実習に臨むことと思いますが、実務教育はまだ始まったばかりです。長期実務実習におきましても厳しく、暖かいご指導を賜りますよう深くお願い申し上げます。　（関根　祐子）

大学院ＧＰ「世界規模の治験・臨床研究を担う医療人育成」プログラムを終了して

我が国の「治験空洞化」は深刻で、治験活性化は国家的重要課題である。レギュレーションの強化・改正や医療・医学研究の高度化のため、世界規模に通用する治験担当者（治験コーディネーターやモニター）は慢性的に不足している。大学院医学薬学府では、平成19年度の大学院教育改革支援プログラム（大学院 GP）に「世界規模の治験・臨床研究を担う医療人育成」 で応募し、採択された。そして本年度、関係各位の絶大なご協力・ご支援により期待以上の成果を挙げ、終了した。特に、平成20年度には黒川達夫氏（前厚労省審議官）を特任教授として迎え、事業は飛躍的かつ実質的に進展した。本プログラムでは、大学院での一環教育のもとに医療専門職として世界規模で治験臨床研究を行う人材を養成することを目的に事業展開した。参加学生は延べ94名、26の特論を開講し、演習、実習、研修も実施した。研修先にはFDAやWHOなど海外公的機関も含めた。シンポジウムも２回開催し、本年度の “臨床開発の新たな地平「研究、教育と実践の調和を目指して」” では、多数の外部参加者を得、本事業に対する大変高いニーズを実感した。　（石川　勉）

研　究　室　紹　介

生体機能性分子

生体機能性分子研究室は現在、高山廣光教授、北島満里子准教授、小暮紀行助教の3名のスタッフに加え、大学院生20名（博士課程8名、修士課程12名）、学部4年生5名と研究生1名の計29名で構成されています。

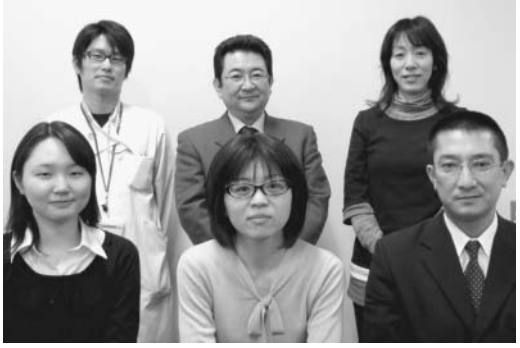
ソフトボール大会にエントリーするときのチーム名は「SKアルカロイズ」といいます。SKは当然、「生体機能性分子」のイニシャルで、研究室の代名詞とでも言えるアルカロイズ（生体に対して特異な機能を発揮する分子）を看板にしています。

当研究室では、「創薬をリードする新しい機能性天然分子の発見と創製を目指して」というスローガンを掲げ、１）薬用資源植物からの新しい活性分子種の追求、２）有用活性天然物に関する合成化学研究、３）天然物・合成品ライブラリーを活用した創薬先導化合物の創製の三つのテーマを連動させながら精力的に研究を進めています。活性評価などについては、本学の研究室をはじめ、他大学研究室、企業、海外を含め多数の共同研究を行い、多方面から創薬へのアプローチを行っています。

また当研究室は、昼食時間にスタッフを含めて大人数で学食に行くことで学部生にも知られており、スタッフと学生がコミュニケーションをとる大切な時間となっています。そのような和やかな雰囲気の中で、お互いに切磋琢磨し、研究の楽しみや苦しみを分かち合いながら、天然物由来の新薬開発を目指した研究が日夜行われています。

（小暮紀行）

臨床教育



臨床教育研究室は平成19年8月に、臨床薬学系の研究室の一つとして発足いたしました。発足当初の平成19年度は、佐藤信範が教授1名としてスタートし、翌平成20年度に配属学生2名が在籍いたしました。平成21年4月には、増田和司（助教）がスタッフとして加わり、現在、スタッフ2名、大学院生1名（博士後期課程1名）、学部生4名（5年生2名、4年生2名）、事務職員1名の計8名のメンバーで構成されています。

当研究室で取り扱う研究テーマの特徴は、医療の現場での活用を常に意識したものであることです。医薬品を取り扱う薬剤師がより信頼性の高い情報を便利に活用できるように、また、それにより患者がより安全で効果的な薬物療法を受けられるように、医薬品に関するあらゆる情報を収集・解析・評価し、不足している情報を補い、活用しやすい形に加工・提供することを目的としています。具体的には、妊婦・授乳婦、小児への医薬品の臨床使用に関する評価や、後発医薬品における情報および使用感に関する評価、添付文書の記載様式に対する評価、医薬品情報データベースの構築に関する研究を行っています。これらの研究は,研究室独自で研究を実施する他千葉大学医学部附属病院をはじめ聖路加国際病院などの病院、日本全国の様々な薬局、他の研究室と共同で行われ、医療現場において発生する多種多様な問題やニーズに応えるべく、研究活動に取り組んでいます。これらの研究活動を通じ、医療人としての倫理感と使命感を携え社会の幅広い分野で活躍できる人材を養成することを教育の理念としております。

これからも、薬友会の皆様のご指導とご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

（佐藤信範）

オープンキャンパスと薬学部志願者について

少子化社会を迎えて、全国の大学では、入学希望者に自校の魅力や特徴を伝えるために、高校生と保護者に大学へ来てもらう「オープンキャンパス」を積極的に開催しています。千葉大学でも、全ての学部が参加して夏季と秋季の２回、オープンキャンパスが行なわれており、夏季は参加人数も多く大規模です。

当薬学部の夏季プログラムでは、薬学部教育紹介、薬学部生の学生生活・進路、入学試験の説明、在学生による学生生活の紹介、研究室・施設紹介などを順次行ないます。高校２年生と３年生に参加者を限定しても、例年1,000名ほどの希望者がありますが、特に昨夏には1,500名超の参加者があり大盛況で、教員・事務職員・大学院生を総動員して、同一プログラムを１日４回行なって対応しました。実際、平成22年度薬学部入試では、前期7.1倍、後期25.0倍の倍率でしたので、薬学６年制導入５年目ですが、当薬学部は高い人気を保っております。

少子化も加わり全国的に志願者が減少している中、更なる魅力的な学部にすべく、教員一同、教育・研究に一層努力をいたしますので、薬友会の皆様のご支援ご鞭撻よろしくお願いいたします。　（山口直人）

Letters from Alumni

クラス通信

昭和15年卒業（二六会）

堀一秀くんが昨年12月13日永眠された悲報に１月中旬接した。運動神経上の脳腫瘍で入退院を繰り返し、10ヶ月余りの闘病生活も甲斐なかったとのこと。生前は文化協会・俳句・以後サークルで活躍し、家庭では良き父として一生を幸せに過ごしたとの、ご息女の心情こもるお手紙でした。

ご冥福を心からお祈り申し上げます。

（石丸　正美）

昭和16年12月卒業（宣葉会）

現在の宣葉会員は９名健在です。米寿（88歳）を迎えたクラスメートは、卒業以来70年の歳月をふり返り、感無量です。この正月なかばに、千葉ロータリークラブの会員の国友君のご尽力で、古山、国友、安田の3名でクラス会を持ちました。何年たっても話はつきず、昨年6月に急逝した三田君の思い出と共に、巣山君、田中君、君塚君、西口君、林一雄君、海東君などの消息を語り合いました。

今年は、秋の「亥鼻会」の折に、クラス会を開催したいと思っています。どうか健在の宣葉会の方は、健康に注意して、元気でお会いできるよう、頑張ってください。　（安田　英夫）

昭和20年卒業（るつぼ会）

平成21年るつぼ会は例年通り上野池之端水月ホテル鴎外荘で６月６日（土）に開かれた。今年度は幸にして物故者なく、全員名簿はそのまま引き継がれると思っていたところ、岡部君の訃報が入り、全員黙祷を捧げることになった。しかし一方で、細川君が瑞宝双光章の受章祝賀会の日と重なり、出席出来ないとの連絡があり、これはお目出度いことで、これでるつぼ会から当山、佐川、坂本、細川の４名の受章者が出たことになり、出席者一同遙か青森の祝賀会の方に向かってお祝いの拍手を送った。

当日の出席者は７名（写真）で、談論風発話題は終戦間近の学生生活、勤労動員、千葉空襲、卒業と就職活動と様々な思い出に包まれた。名簿上は22名の健丈者が居ることになっているが、お互いの消息を尋ねるとほとんど全員何らかの身体的故障を持っていることは判っている。生物学的自然のなり行きとは云うものの、昨年のオバマ大統領の核兵器廃絶と云うノーベル平和賞受章の宣言と共に、我が国の広島、長崎市長の賛同を通して、我々学生時代のいまわしい記録を全世界から払拭することが人類の願いだと、るつぼ会会員がささやかな希望を持っていることをここに記しておきたい。

写真　前列左から、渡辺、坂本、西川、後列、横田、水橋、佐川、川島の諸兄。　（西川　文雄）

昭和22年卒業（臥豚会）

平成21年には、６月に西願弘司君、８月に森下泰治君の訃報に接し、また消息不明であった内モンゴルの呉恩巴雅栁尓が８月に他界の旨が確認された。ご冥福をお祈り致します。

これより　昭和22年卒の同級生55名のうち、物故者は33名、消息不明は４名、確認された現存者は18名となりました。消息不明の今井淳君、後藤健君、小峰喜佐夫君、松田精作君の４名につき、御存知の方は、中島または塩崎にご連絡お願い致します。

平成21年12月、現存者の18名に対し、健康状況の調査を前年同様に行い、全員から折り返し回答を得た。その結果は次の通りです。

1）介護施設に入所中。２名
2）定期的に通院中で、かつリハビリまたは介護を受けています。５名
3）定期的に通院中ですが、日常生活は概ね普通です。８名

4）日常は診察など全く受けないで、健康であり、元気です。３名

毎年、同級生の生存者が減少するのは、世の常とは言え、何とも寂しい限りです。

平成19年５月、卒業60周年の臥豚会の席上、小林富治郎君が生存の同級生25名に向けて「厚生省公表の生命表によれば、傘寿に達した男性は、平均して米寿を迎えることができる」と励ました言葉が思い出されます。（中島　良郎）

昭和23年卒業

待望の二期工事許可となり新棟建設、誠におめでとう御座います。

21年のクラス会は２年続いた千葉から再び東京に戻り、５月９日新橋『新橋亭』で開催。昨年は４名の物故者が有り出席者も大幅に減ると思ったが、従来殆ど欠席であった長谷川君と、これも久し振りの山下君の出席があり、例年とあまり変わらない14名の参加を得た。今年の歓談の特徴は皆さんが親しかった仲間（特に物故者）の思い出を熱心に語ったことである。皆さんの発言を拝聴しながら、記憶や印象が薄くなった故人の面影を改めて思い起こした次第です。また今年は物故者が無くほっとしましたが、昨年物故された４名中２名が未報告なのでお知らせいたします。『訃報』小林文雄君が20.6.27、鹿島明君が20.8に逝去されました。心からご冥福を祈ります。永らく大阪にお住まいの古橋君が熱海に転居しました。『出席者氏名』前列左より吉川、古川、小沢、古橋、長沢、三浦、後列左より皆川、清水、井上（富）、長谷川、大塚、山下、なお小林（剛）、植草は遅れて出席の為写らず。

（三浦　　清）

昭和24年卒業

この数年会員の老齢化のため、活動も鈍り、クラス会ものびのびとなっていたが、これではまずい、たまには集ろうという気運が盛り上がり、昨年11月27日上野の伊豆栄で久方ぶりのクラス会を行うことになった。

会員全員が80歳代になったとかで、集まりが心配されたが、望外の10名が集り、おおいに盛り上がり、階級談にふけり、いささか若返った感のあるクラス会であった。若し参加者が７名以下なら今回をもって一応打ち切りとの意見もあったが、これだけ楽しいのであれば、時期は決定せずとも都合の良い時期に又会おうということを決め散会した。（酒井　正嘉）

昭和25年卒業

今年は卒後60年。４月16日（金）に記念クラス会を開催することになった。場所は新橋の新橋亭。現在11名＋αの出席が見込まれている。

級友は皆既に傘寿に達し、大方は一病息災を以て好しとしているが、特に外出が儘ならぬ諸兄には一層のご自愛を祈るとともにお互いこれからも健康第一で行きたいと願っている。

同級生は総数わずかに35名。内訳は電話で連絡のとれる者17名、依然消息不明の者２名、物故者16名。この16名のうち二人はここ２年間の痛惜事［小出進君（平成20年２月）と小森正君（平成21年８月）］である。

小出は薬友会会員名簿1999には勤務先東京農業大学とあるが、その前は東大教授（農学部）。小森は武田薬品で活躍、また画も能くしていた。改めて両兄のご冥福を祈る。（鈴木昭治郎）

昭和28年卒業（千葉薬28会）

平成21年の同期会は恒例により４月16日（木）、新井、石川、飯田、尾中、大野、加藤、亀田、北野、坂口、進藤、鈴木（豊）、高橋（明）、塚田の諸兄、13名の参加を得て開かれ、盛会裡に３時間を超える時を過ごす事が出来ました。私共新制大学の一期生は、戦後の混乱期に陸軍の幼年学校出や旧制高校から、或いはその卒業生等、年齢も５年ほどの開きのある構成ですが、良く纏まってこれました、ただ80歳を過ぎると、時間に余裕が出来た事もあり、最近は絵を描くメンバーの発表展覧会や音楽会に誘い合って観賞し、時に小散歩を楽しんで、そして帰りに一杯やるなど、小グループの楽しみをやり始めました。

進藤君の絵画展に、坂口君や鈴木（豊）君の史跡見学など今年も計画して居ります。

最後になりますが、永いこと会の運営にご努力戴いた、飯田　実、板山　武裕の両兄が奇しくも年末12月11日（同じ日）に身罷りました、謹んでご冥福を念じます、合掌。（尾中喜代治）

昭和31年卒業（三一会）

後期高齢者と一括りにされる年齢になり、喜寿の祝いをしても、千葉薬の縁はまだ継続しています。数年の在学環境が人生に占める割合が大きいことに驚いているこの頃です。国立大が独立法人にされ、運営に工夫が必要になり、研究環境の充実もテーマの一つでしょう。社長や学長経験のある先輩に援助をお願いするのも絆を生かした方策でしょう。年を重ねるとお節介が出てくるようです。クラス会は、先年東京でしたが、今年は張り切って出雲方面への旅行が企画されています。千葉大学薬学部の発展を祈っています。

（星　　昭夫）

昭和32年卒業

今年は新型インフルエンザ（Ｈ１Ｎ１）のパンデミックフェーズが懸念されるなか、後期高齢者の面々 11名が、５月９日（土曜日）～10日（日曜日）の間、鎌倉あじさい荘での１泊旅行を楽しみました。

何事も記録が重要とのことで、ご参加頂いた方々のご芳名をまず、紹介させて頂きます。ともかく、はるばると、鎌倉まで来られた気力・体力に乾杯したいと思います。

〔参加者；敬称略〕畝本　力、小幡　誠、小尾　陞、風間昭明、後藤八重子、斉藤庄一、高橋　惇、高山浩明、辻　和之、辻村節子、宮田満男（幹事）、以上11名。

さて、旅程ですが、15:00ごろ あじさい荘　に集合、早速、元気な方々と春爛漫の鎌倉名所、権五郎神社、長谷寺周辺を散策、若者であふれる湘南の海をわたるさわやかな風に心も浮き立つひとときを過ごしました。夕餉の小宴会では、期待に違わぬ“てんこ盛りの刺身”に舌鼓をうって、食糧難を乗り切った元青年たちは、時の経つのも忘れて語らいました。

今年は、２月に野崎　順久さま、５月に吉岡 佑子さま、６月には大川 幸子さまが、ご逝去されました。合掌。　（宮田　満男）

昭和33年卒業

亥鼻山の満開の桜の下で開かれた入学式で顔を合わせて55年、我がクラスは、そろそろ全員が「後期高齢者」に手の届く年になりました。インドネシアの留学生1名を含めた同級生44名のうち41名が現存し、それぞれ、仕事、趣味、孫の世話等々に元気で落ち着いた日々を過ごしています。

クラス会は、都内（日帰り）と近県（1泊）で、毎春、ほぼ交互に開催されています。昨年、「卒業50周年記念会」が都内で開かれ、今年は、5月17-18日に南房総の鵜原（鵜原館）に20名が参加して行われました。鵜原は、「鵜原理想郷」として昭和の初めに開かれた千葉県一の景勝地ですが、未だに古き良き時代の素朴な雰囲気を残した漁師町です。日本の渚100選（鵜原海水浴場）、リアス式の断崖（鵜原理想郷）等々、未だ千葉にもこんなに美しく、癒される場所が残っていたのかと、豊かな海の幸を味わいながら、改めて、南房総の良さを満喫しました。同級生一同の恙無い今後の年月を願って止みません。　（武藤　明臣）

昭和34年卒業（亥鼻三四会）

卒業して早50年。平成21年９月29日「卒業50周年の集い」に17名（内女性５名）が磐梯熱海に参集した。未だに忙しく、仕事の合間を縫って参加した人も何人か居た。宿の「四季彩・一力」はなかなか気品があり、舌鼓をうちつつ、昔を偲びつつ、欠席者の近況報告を交えつつ、楽しい一夜を過ごした。翌日は磐梯山を眺めながら猪苗代湖周辺の散策、五色沼散策（五色の湖面に映える紅葉を健脚で楽しむ）後、会津若松の由緒ある旅館「向瀧」（国・文化財登録制度第一号。中を丁寧に案内してもらった。）に宿泊した。３日目は飯盛山、鶴ヶ城等会津歴史探訪。旧交を温めつつチョット贅沢な、しかし思い出に残る旅をした。８名が最後まで楽しんだ。　（長尾美奈子）

昭和35年卒業「珊瑚会」

昨年5月17日（日）明治神宮の森に近い「代々木倶楽部」でクラス会を開催。久し振りに佐瀬雄二君も参加、21名で楽しく語りあうことができた。今年、平成22年は卒業50周年を迎える記念の年になること、さらに幹事の役割、連絡網の確認など行った。続いて全員が近況を語る。家族、健康、薬剤師としての活動、さらに山行き、旅行、能面や仏像の彫刻、落語を楽しみ、玩具作りに第二の人生に生き甲斐を見つけた人もいる。

１階レストランでの二次会に全員参加、学生時代の思い出、懐かしい恩師の思い出話などに花が咲いた。50周年を迎える「珊瑚会」、大学４年間共に過ごした仲間、末永く大事に大切にすることを確認しあって閉会となった。

今回のクラス会の直前、八森豊君から「医師から検査・治療を指示され、専門学校の講師の仕事があるので困っているが、止むを得ず指示に従うことにした。したがって残念ながらクラス会は欠席する。」と急な連絡。彼はすぐ検査、入院加療を始めたが６月８日急逝。「かけがえのない仲間を失ってしまった。」と皆、驚き残念がった。10日通夜式、11日告別式にクラス有志延べ10人が参列、ご冥福をお祈りした。

（秦　　初博）

昭和36年卒業（三六会）

私達のクラスメートは、４年前にクラス一の美女・宍倉さんが亡くなられて悲しい思いを致しまして以来、残された「それなりの」女性陣は勿論、男性陣も皆さん其々お元気で、第二の青春を謳歌してらっしゃるのが、何よりの自慢です。中でも卒業以来、北海道へ行かれたきり、あまりその動静が伺えなかった中島良徳さんが、最近私達幹事にメールを下さり、それによりますと目下、看護専門学校等二ヶ所で教鞭をとり、若い看護師の育成に当たっておられるとか。しかも、奥様が御当地で少年少女合唱団を結成され30数年活動をなさっておられ、小樽市使節団として彼もナホトカ市を訪問された由。現地報道機関の報告として、掲載された写真（勿論文章はロシア語で書かれています。）と、小樽市長室でその報告会を行っている動画を送ってこられ懐かしく見入りました。

ところで、例年のクラス会は、北陸路・福井県の旅でした。例年の旅行や会合を計画するに当たりましては、先ず、幹事達が集まって取り決めるのですが、幹事・・と申しましても、千葉科学大学で今でも教鞭を

取っておられる村上泰興さんと旅上手の高橋哲夫さんが千葉在住の人を中心に６名を「幹事」と決めたのです。幹事となったからには、立てた計画には、よっぽどの事がない限り、欠席するわけには行きませんし、どんな計画も、６名プラス数人いれば、実行可能ですし・・・、本当に、村上さん・高橋さんはセッティング上手・乗せ上手です。出発までは、私共の年代でも、今どきのお若い方々に負けず劣らじと、メールが飛び交うんです。ですから、出発前の打ち合わせは万全です。総勢11名。越前大野・永平寺・東尋坊など、秋の北陸情緒をたっぷりと楽しみました。　（川上　京子）

福井県立博物館にて

昭和37年卒業

平成21年度のクラス会は10月25日、JR有楽町駅近くのニュートーキョーで15名参加のもと開催された。

前年度、食道と胃をほぼ全摘という大手術に見舞われた境氏の元気な姿を見て、感動に近いものを覚える。氏曰く「人生何があるか分からない」と。全員の近況を聞きながらのあっという間の２時間でした。

そしてこのクラス会の丁度２ヶ月後の12月25日、永年学年理事として本稿を寄せ続けて来た池田守男氏（写真左から２人目）が急逝したとの悲報に、参加者全員が信じられない思いとショックを受けることになる。

「人生何があるか分からない」は日一日を大切にし、充実した人生を送れとのメッセージと受け止めて、今後の我が道に生かしたい。全員が古稀を迎えた忘れ得ぬ年度となった。（合掌）　（星野　英雄）

昭和38年卒業（三葉会）

昨年のクラス会も地縁のある西さん、船崎さんのご協力で新潟で開催しました。越後の豪農の館、彌彦神社、良寛の出身地雲崎、西さんの実家の江戸時代からの造酒屋の見学、大河ドラマ「天地人」所縁の上越では林泉寺や春日山神社などのんびりと旧交を温めながら二泊三日の旅を楽しみました。上越での船崎さんとの再会は卒業以来という方も多かったのですが、一瞬で学生時代に戻れたような気がしました（出席20名）。今年のクラス会は箱根で、来年は埼玉で開催して故郷巡りは一段落する予定ですがその後については未定です。古希の峠も越えて、気力も体力も衰え始めましたが、お互いにもう少しガンバって今しばらく続けていけたらと思っています。

昨年６月28日に原口克介さんが逝去されました。前年には幹事として尽力頂きましたし、今後も期待していたのですが残念の極みです。ご冥福をお祈りします。

（鷲見　常夫）

昭和39年３月卒業

平成21年のクラス会は、10月17日（土）、銀座アスター日本橋賓館で開催されました。

出席者は、今泉、大城、大原正巳・綾子、佐藤敏子、戸塚、藤本、牧野、山口の諸氏と幹事の鈴木、立澤の12名でした。各自の近況を話してもらい、大変に楽しく盛り上がりました。現役の方々の仕事の内容、趣味の旅行、スポーツ、野菜づくりなどの園芸、ボランティア活動、家族の近況と介護、健康などについての話題が尽きませんでした。出席者全員が、楽しく歓談し、予定の３時間があっという間に過ぎてしまい、再会を期して閉会となりました。

次回は、山口君と佐藤敏子さんが幹事でクラス会を開催する予定ですので、皆さん是非参加して下さい。

（立澤　晴男）

昭和40年卒業（峠の会）

平成21年度のクラス会は、「年１回開催」の確認どおり10月３日（土）新宿小田急百貨店内の「京の茶屋」で開催されました。会場は「雨の日でも集まりやすい駅の中のお店」という幹事さん（竹山・松田両氏）の配慮から選定されたそうですが、確かに当日は雨のち曇りの天気でした。なぜか「峠の会」は雨天が多く前回も雨が降りました。出席者は16名（女性10、男性６）で、久々に扇田氏（神奈川県）、吹野氏（千葉県）そして普天間氏（沖縄県！）が参加してくれましたので大変感動・感激しました。数十年間の空白を埋めるには余りにも短い時間でしたが、二次会も利用してそれ

ぞれ旧交を温めることができました。今年は卒業45年目の節目の年です、皆さん万難を排して「峠の会」に参加しましょう！

次回幹事さんに池田（紀）・五月女両氏が選出され、本年秋に開催することを確認して散会しました。

（平野　武明）

昭和41年卒業（66会）

昨年5月に恒例のクラス会を那須高原で開催。クラスの約1/3が参加し、名湯で日頃の疲れを癒し、宴会、二次会と夜遅くまで大いに盛り上がりました。翌日は、可憐なゴヨウツツジの群生したマウントジーンズ・スキー場を散策。心身ともにリラックスできました。

しかし、９月に1年余りすい臓がんと懸命に戦っていた奥田兄の訃報に接し、クラスで一番若く、フルマラソンを何回も完走するほどの体力があったのに残念でたまりません。心からご冥福を祈ります。

今年のクラス会は5月に軽井沢で予定されております。温泉につかり、ひと時、学生時代に戻るのも良いものです。今まであまり参加できなかった人も含め、今年は少なくても半分程度の参加を期待しています。

（成毛　　驍）

昭和42年卒業

42年卒の我々は松永(半田)、小泉(岡)、辰野(金子)そして掉尾を飾って藤井(中島)さんで全員【若くして亡くなられた古屋(亀川)さんを除く】高齢者となりました。

しかしながら、かなりの人が今も活躍して会社・社会・地域医療にと貢献されていらっしゃる。毎日が日曜日のわたくしめは小さくなっております。

昨年12月の末に思いもしなかった訃報を聞く。

我がクラスの数少ない(?)男子の一人「秦君」が急逝、『会者定離』は世の常とはいえ、あまりにも突然だったので、我々一同茫然自失、「ハタショック」により各自の健康管理等の見直しと強化が促された。

合掌

今年は3年ぶりのクラス会を開く予定ではあるが、その時には秦君の冥福を祈るとともに、おのれの過ぎし昔を振り返り、これからの進む道についてを話し合う事といたしたい。

（齊藤　　弘）

昭和44年卒業

昨年の活動：クラス会　平成21年６月19日東京ジョンブル（東京丸の内）16名参加

幹事：清島保江・松丸明子

本年の活動予定：クラス会　平成22年４月９～10日江戸屋（筑波山麓）

幹事：阿部倫子・本多牧子

在学中は毎年クラス旅行をしていました。本年は40余年ぶりの泊り掛けクラス会です。

写真は昨年６月東京ジョンブルでの集合写真です。

（柿沢　英則）

昭和51年卒業

おしゃれな若いカップルが行き交う表参道。その一角にある青山ダイヤモンドホールに、ちょっと違う雰囲気のおじさん、おばさんたち24人が集まりました。卒業して30年余り経ち、今は製薬会社の役員、薬局の薬剤師、主婦など、違った生活をしていますが、久しぶりにあって話をすると「あら～！〇〇クン。ちっとも変わらないねぇ」、学生時代の関係にタイムスリップしました。

一人ひとり近況を披露。毎日フィットネス通いしても痩せないね、孫はかわいいねぇ、親の介護が大変だ、こちらはまだ小学生の子どもがいる、会社をやめて趣味が楽しくて、いやいやこちらは会社勤めでますます厳しいなど、皆、それぞれに活き活きとした毎日の様子が伝わってきました。あっという間の2時間で、次回の幹事を決め散会となりました。

しかし、終わって外に出ると、黄葉のケヤキ並木のまちの雰囲気がよく、皆で散歩しました。それでも話が尽きず、ほとんどのメンバーが2次会へ行って楽しみました。(2009年10月31日。幹事:大抜隆雄、木本真知子、高橋朝子)

（高橋　朝子）

昭和55年卒業

同期の皆様、私が仕事をしている医学教育研究室は亥鼻キャンパスの医学部の建物の中にあります。そこから付属病院にも度々行く用事があるので、片道400ｍぐらいの距離を一日数回往復しています。今ちょうどその中間地点で見られる風景が表紙の写真です。ここは薬学部が西千葉キャンパスから亥鼻キャンパスに移転する予定地で、建物を建てる前に埋蔵文化財調査をしている人たちの姿です。お宝が見つかるかどうか楽しみです。薬学部も６年制になったり、学部が移転したりいろいろ大きな変化が起こっています。新しい薬学部ができたら、見学に来てください。来年からはまた「友達の輪」方式を再開したいと思っていますのでよろしくお願いします。

（朝比奈真由美）

ゐのはな山岳会50周年を迎えて

昨年、ゐのはな山岳会は設立50年を迎えました。今日は、現在の活動と昨年開催した50周年山行・懇親会について紹介します。現在、会員数は、約50名で常時10数名が月1回の山行を楽しんでいます。毎年末に翌年の年間山行計画を立て、毎月の山行はリーダー制をとって、各自得意の山、温泉、飲み処を紹介しながら日帰り（時には2泊3日）で行っています。昨年は、遠くは白神山地、近くは箱根旧街道ハイキングと、とても盛りだくさんの内容でした。また、10月24－25日には、ゐのはな山岳会50周年記念事業として、岩戸山・日金山山行と懇親会（リゾーピア熱海）を30名（添付写真＋石井靖男さん、猪股さん）の参加で行いました。懇親会では、50年間の活動に関連する写真をインターネット経由で上映しながら、次の60周年に向けたゐのはな山岳会の発展を祈念して乾杯しました。

只今、私達は新メンバーを募集しております。年齢制限はありません。どなたでもご興味ある方、是非一度山行に参加しませんか！山の空気、植物の緑に触れるととても気持ちがいいですよ！

（連絡先及び記事作成：角田範子　atukak@fb3.so-net.ne.jp）

（岡崎美沙子）

サークル紹介

千葉大学薬友会ゴルフ

７年目を迎えた薬友会ゴルフは21年度例会を磯子CCにて春季4.17（金）、秋季10.9（金）に各16名、13名の参加を得て開催いたしました。

今年は幹事勝浦さんのご努力により下記の方々のご参加を頂き「田村隼也(42)、興村伸夫(42)、長谷川二郎(43)、吉岡武男(44)、長谷川惠子(44)、鈴木達夫(53)各氏」大いに活気付き大変楽しい会になりました。（ ）内は卒業年度。若い年度の方が増えることは会が発展する上で欠かせない要素ですので、ぜひお誘い合わせの上ご参加くださる様お待ちいたして居ります。

11回大会成績

①重枝　力(38)　②池田守男(37)　③村瀬一郎(38)

12回大会成績

①池田守男(37)　②横田友三郎(38)　③平野武明(40)

発足以来順調に発展してきた薬友会ゴルフですが、個々で悲しいお知らせを皆さまに申上げることになりました。一つは昨年も記しましたがこの会の発展に多大の寄与をされて来られた原口克介氏(38)が薬石の効無く21.6.28に逝去されたこと、今ひとつは発足以来の常連で毎回優勝か準優勝し、昨年の紙面でエイジシュートの快挙を報告した池田守男氏(37)が21.12.25に急逝された事です。10月には元気で参加され優勝して帰られたばかりで最初は全く信じられませんでした。お二人のご冥福を心からお祈り致します。

今年度の大会予定　春季４月16日（金）
　　秋季10月15日（金）磯子CC

『連絡先』勝浦公男（S44年卒）　電話03-3565-3428

写真は11回大会参加者　　（世話人　三浦　清）

薬学軽音部

私たち薬学軽音部は薬学のサークルとして音楽、特にエレキギターやベース、ドラムといった楽器を用いる軽音楽の練習を通して交流を行っています。

主な活動としては、薬学講堂にある楽器や自分の持っている楽器を使って、薬学講堂裏で時間の空いている時に練習を行っています。練習する内容も人それぞれで、特に指導をしたりといったこともなく、自由に活動しています。基本的に活動は不定期で発表の場所というのも特別に設けているわけではありませんが、他の音楽系サークルにも入っている部員が多く、そこで個々に練習した内容の発表を行っています。

部員も少なく発表する機会もありませんが、それでも多いときには週に二、三回練習をしているような部員もいます。今後部員が増えることで大学祭などでの発表が行えたらという風に考えています。

（薬学部４年生　本田　拓也）

講堂裏にある楽器

学部だより

受　　賞（平成21年４月１日～平成22年３月31日）

学　会　賞

平成21年10月３日　日本薬学会関東支部会奨励賞（日本薬学会関東支部会）　熊本 卓哉（薬品製造学）
平成22年２月19日　有機合成化学協会研究企画賞（有機合成化学協会）　鈴木 優章（薬品物理化学）
平成22年３月27日　日本薬学会学術貢献賞（日本薬学会）　石川　　勉（薬品製造学）
平成22年３月27日　日本薬学会学術貢献賞（日本薬学会）　山本　恵司（製剤工学）
平成22年３月27日　日本薬学会奨励賞（日本薬学会）　荒井　緑（活性構造化学）

論 文 賞 等

平成21年５月24日　第４回トランスポーター研究会Poster Session優秀発表賞（トランスポーター研究会）
松本　早矢香（薬物学）
平成21年５月24日　第４回トランスポーター研究会Poster Session優秀発表賞（トランスポーター研究会）
飯倉　南（薬物学）
平成21年７月７日　2009年度田邊賞受賞論文（日本トキシコロジー学会）　上野　光一他（高齢者薬剤学）
平成21年８月29日　和漢医薬学会ベストポスター賞（和漢医薬学会）　柿倉　遥他（高齢者薬剤学）
平成21年９月26日　第25回製剤と粒子設計奨励賞（粉体工学会）　丸山　直（製剤工学）
平成21年10月14日　第39回複素環化学討論会最優秀講演賞（複素環化学討論会）　小池　由佳（薬品合成化学）
平成21年10月24日　第82回日本生化学会大会 優秀プレゼンテーション賞（日本生化学会）
小幡　裕希（分子細胞生物学）
平成21年10月29日　未踏ユース スーパークリエータ（独立行政法人 情報処理推進機構）
山岸　純也（薬品物理化学）
平成21年11月17日　第35回反応と合成の進歩シンポジウム優秀発表賞（日本薬学会化学系薬学部会）
徳能　紗也香（薬品製造学）
平成21年11月17日　第35回反応と合成の進歩シンポジウム優秀発表賞（日本薬学会化学系薬学部会）
東道　のぞみ（薬品合成化学）
平成21年11月28日　2009年度DMPK最優秀論文賞（日本薬物動態学会）　千葉　寛他（薬物学）
平成21年11月28日　第24回日本薬物動態学会年会ベストポスター賞(日本薬物動態学会)　吉田　茜他(薬物学)
平成21年11月29日　Asian Core Program Lectureship Award, The 4th International Conference on Cutting-Edge Organic Chemistry in Asia（ICCEOCA-4）　西田　篤司（薬品合成化学）

学　内　賞

平成21年４月27日　なのはなコンペ2009（千葉大学）　出浦　小織（製剤工学）
平成21年12月３日　千葉大学オープンリサーチ2009学長賞優秀賞（千葉大学）　高山　廣光（生体機能性分子）
平成21年12月24日　なのはなコンペ2010（千葉大学）　八十歩　直子（生体機能性分子）

2009年度　博士学位授与一覧

課程博士（甲号）

氏　名	学位の種類	論　文　題　目	授与年月日
中林　亮	博士（薬学）	シロイヌナズナにおけるメタボロミクス基盤構築のための植物化学研究	平成21年9月30日
御原　康洋	博士（薬学）	海洋産アルカロイド、マンザミンBの全合成研究	平成21年9月30日
濱田　和真	博士(医薬学)	メトトレキサートによる小腸上皮バリア機能障害に関する研究	平成22年3月25日
染川　麗良	博士(医薬学)	臨床試験および治験における教育環境の現状と将来についての薬学的研究	平成22年3月25日
斎木遼太郎	博士(医薬学)	ポリアミンから産生されるアクロレインの脳梗塞における影響	平成22年3月25日
秋山　和映	博士(医薬学)	透析患者の便秘に関する研究　－有効な予防法と治療法の検討－	平成22年3月25日
簾　貴士	博士(医薬学)	医薬品使用が妊婦に与える影響に関する情報学的検討 －新たなリスクカテゴリーの構築を目指して－	平成22年3月25日
鈴木　誠	博士（薬学）	植物メタボロミクスによる有用遺伝子のスクリーニングに関する研究	平成22年3月25日
太田　悠葵	博士（薬学）	メチルセレノールを介したセレン化合物の体内代謝機構	平成22年3月25日
中埜　貴文	博士（薬学）	小腸における薬物トランスポーター MRP2/ABCC2、MDR1/ABCB1の細胞膜局在制御機構の研究	平成22年3月25日
森山　智之	博士（薬学）	ドキソルビシン心毒性における蛋白糖化反応の役割に関する研究	平成22年3月25日
Sasitorn Aueviriyavit	博士（薬学）	Functional characterization of CYP3As-humanized mice constructed by human artificial chromosome vector system and their application to drug-drug interaction study（ヒト人工染色体ベクターシステムにより作成したCYP3Aヒト化マウスの機能解析と薬物間相互作用研究への応用）	平成22年3月25日
齊藤　公亮	博士（薬学）	核内レセプター constitutive androstane receptor（CAR）の発現調節機構	平成22年3月25日
吉富　弥生	博士（薬学）	有機触媒を用いる触媒的不斉合成反応の開発と生理活性天然有機化合物の合成への応用	平成22年3月25日
蔣　航	博士（薬学）	光学活性ピペラジン酸とベンゾフラン類の不斉合成法の開発と応用	平成22年3月25日
田形　剛	博士（薬学）	回収・再利用可能なＣ－Ｈホウ素化イリジウム触媒の開発とフロー反応への展開	平成22年3月25日
伊藤　敦俊	博士（薬学）	固体NMRを用いたトログリタゾン固体分散体の物理的安定性予測方法の開発	平成22年3月25日
小貫　洋一	博士（薬学）	低置換度ヒドロキシプロピルセルロース添加顆粒によるアスコルビン酸及びチアミン硝化物の安定性改善に関する研究	平成22年3月25日
WANAWONGTHAI Chalermphon	博士（薬学）	Role of polymer and surfactant on probucol nanoparticle formation from ternary co-grinding（3成分混合粉砕によるprobucolナノ微粒子生成における高分子及び界面活性剤の役割）	平成22年3月25日
蓮井　昭宏	博士（薬学）	Transdermal iontophoretic delivery of [3H]-betamethasone sodium phosphate to the hind knee joints of rabbits: Visualization of drug permeation routes and distributions（[3H]－リン酸ベタメタゾンを用いたウサギ後脚へのイオントフォレシス経皮投与：薬物の透過経路と分布の可視化）	平成22年3月25日
花輪　和己	博士（薬学）	臨床における末梢性神経疼痛患者に対する新規外用治療剤の開発	平成22年3月25日
Waree LIMWIKRANT	博士（薬学）	Preparation of Novel Ofloxacin-Dicarboxylic Acid Complex and Characterization by Terahertz Spectroscopy（オフロキサシン―ジカルボン酸新規複合体の調製及びテラヘルツ分光法による物性評価）	平成22年3月25日
張　剛	博士（薬学）	Ⅰ.Isolation of Bioactive Components from Ecuadorian Aristolochia constrica. II. Studies on Guanidine-Catalyzed Asymmetric Reactions.（I. エクアドル産薬用植物Aristolochia constricta からの活性成分の単離・同定 Ⅱ.キラルグアニジンを用いた不斉反応の検討）	平成22年3月25日
齋藤有里子	博士（薬学）	PET薬剤を用いたがんの質的診断に関する基礎的研究	平成22年3月25日
新谷　彰教	博士（薬学）	変形菌キフシススホコリ等の化学成分に関する研究	平成22年3月25日
Ahmed Firoj	博士（薬学）	Search for bioactive natural products with TRAIL-resistance overcoming activity　（TRAIL耐性克服作用をもつ天然物の探索）	平成22年3月25日

論文博士（乙号）

氏　　名	学位の種類	論　　文　　題　　目	授与年月日
野澤由利子	博士（薬学）	化学分類のための細胞壁ペプチドグリカン構成アミノ酸分析法の構築	平成21年9月30日
清水　美衣	博士（薬学）	動脈血栓症発症予知マーカーとしての活性化血小板および血小板自然凝集塊検出法の有用性とその意義について	平成21年9月30日
町田　和弘	博士（薬学）	新規抗腫瘍活性物質プラジエノライド生合成遺伝子の同定と一段発酵法の開発	平成21年9月30日
松田　佳子	博士（薬学）	ヒスタミンの関節リウマチ骨破壊に及ぼす影響並びにヒスタミンH4受容体の発現に関する研究	平成21年9月30日
石黒　昭博	博士（薬学）	日本人におけるCYP2D6変異遺伝子の解析とその表現型に与える影響に関する研究	平成21年9月30日
矢部　素子	博士（薬学）	標的指向性を有した抗体医薬およびタンパク製剤の組織分布特性に関する研究	平成22年3月25日
横野　晃子	博士（薬学）	ストレプトゾトシン-ニコチンアミド誘発糖尿病マウスを用いたDPP-IV阻害薬の薬効評価法開発に関する研究	平成22年3月25日
篠永　英樹	博士（薬学）	WNT-5A 発現抑制活性を有する新規ラディシコール類縁体と誘導体に関する研究	平成22年3月25日
神子島佳子	博士（薬学）	新規トリアゾール系抗真菌剤の合成研究	平成22年3月25日
守屋　隆一	博士（薬学）	Studies on the roles of neuropeptide Y receptors in the regulation of appetite, body weight and gastrointestinal motility （ニューロペプチドY受容体の食欲・体重及び消化管運動抑制に関する研究）	平成22年3月25日
Jankana Burana-osot	博士（薬学）	Regulatory approach for nutraceuticals and medicines containing carbohydrate From natural products.	平成22年3月25日
福島　　浩	博士（薬学）	DPP-Ⅳ阻害薬の創薬研究	平成22年3月25日

教員の異動（2009. 5. 1～2010. 4. 30）

H21. 5. 1
濱嶋　祥就（助教）採用
（名古屋大学大学院生命農学研究科→薬化学

H21. 6. 1
當銘　一文（助教）採用
（日本メナード化粧品㈱綜合研究所→活性構造化学）

H21. 7. 1
根本　哲宏（講師）昇任（薬化学）

H21. 10. 1
高屋　明子（准教授）昇任（微生物薬品化学）

H22. 3. 31
熊本　卓哉（准教授）退職
（薬品製造学→武蔵野大学薬学部教授）
阿南弥寿美（助教）退職
（衛生化学→昭和薬科大学薬学部准教授）
細山　沙織（助教）退職（病態分析化学）

H22. 4. 1
西村　和洋（准教授）昇任（病態分析化学）
鈴木　紀行（准教授）配置換
（テニュアトラックシステム分子画像薬品学特任准教授→薬品製造学）
東　　恭平（助教）採用
（㈱アミンファーマ研究所→病態分析化学）
黒川　達夫（客員教授）配置換
（大学院GP特任教授→国際臨床開発・規制科学寄附講座）

訃　報
本学大学院薬学研究院　平良優一郎助教（分子画像薬品学研究室）が平成22年４月14日に急逝されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

2009年度　卒業生・修了生の進路

学部卒業　40名：進学37名（千葉大学36名　他大学1名）、病院・薬局・公務員等1名（スギ薬局）、企業2名（リバース、積水メディカル）

修士修了　97名：進学11名（千葉大学11名）、病院・薬局18名（東京大学附属病院、筑波大学附属病院、聖マリアンナ医科大学病院、聖隷佐倉市民病院、加藤レディースクリニック、亀田総合病院、群馬大学医学部附属病院、帝京大学附属病院、茨城県立中央病院、東京女子医科大学病院、幸手総合病院、都立広尾病院、千葉徳洲会病院、タカダ薬局、あけぼの薬局、日本調剤、薬日本堂）、企業55名（旭化成ファーマ、朝日食品工業、イーピーエス、東邦薬品、サノフィ・アベンティス、協和発酵キリン、クインタイルズ・トランスナショナル・ジャパン、旭化成、大正製薬、グラクソ・スミソクライン、武田薬品工業、大鵬薬品、東和薬品、持田製薬、日本メディカルシステム、久光製薬、アスクレップ、大日本除蟲菊、テルモ、ナイフィックス、日医工業、キョーリ

ン製薬、積水メディカル、大日本住友製薬、日本たばこ産業、アステラス製薬、中外臨床研究センター、花王、科研製薬、鳥居薬品、中外製薬、第一三共、第一三共プロファーマ、全薬工業、日本イーライリリー、味の素製薬、広栄化学工業)、公務員・その他13名（地方公務員、医薬品医療機器総合機構、日本食品分析センター）

博士修了　24名：医薬品医療機器総合機構、国立環境研究所、安田女子大学、アミンファーマ研究所、三菱化学メディエンス、エーザイ、第一三共、山梨大学医学部附属病院、武田薬品工業、東京大学大学院薬学研究科、浜松医科大学、広栄化学工業、三愛記念病院など。

2010年度　薬学部・大学院医学薬学府入学者

学部入学　84名：(男46名、女38名)：推薦10名、前期62名、後期12名、帰国子女０名　(出身県別：北海道１名、岩手１名、山形１名、福島１名、茨城３名、栃木２名、群馬２名、埼玉７名、千葉16名、東京30名、神奈川９名、山梨２名、静岡４名、大阪１名、岡山１名、広島１名、沖縄２名)

修士入学　52名：総合薬品科学専攻52名

博士（薬学領域）入学　21名：創薬生命科学専攻18名、先進医療科学専攻１名、先端生命科学専攻２名

速報　本会関係者３名が文部科学大臣表彰を同時受賞

本学　斉藤和季教授（遺伝子資源応用研究室)、理化学研究所基幹研究所　袖岡幹子主任研究員（S56年卒、S58年修)、大阪大学産業科学研究所　山口明人教授（旧職員）の３名が平成22年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞(研究部門)を受賞されました。心よりお慶び申し上げます。

薬友会より

薬友会のホームページURLです。随時更新しております。ぜひご覧ください。

http://www.p.chiba-u.ac.jp/yakuyukai.html

平成22－23年　主な活動予定

22年５月　会報20号発行
　　７月　役員会および総会・生涯教育セミナー
　　12月　役員会・常任理事会
23年５月　会報21号発行
　　７月　役員会・生涯教育セミナー
　　12月　役員会・常任理事会

平成21年度　活動報告

３月　新入生入会案内（新規終身会員103名）
５月　会報19号発行
７月　第18回千葉大学薬友会生涯教育セミナー（宮木高明セミナー）開催（千葉大学けやき会館）
「植物からのくすり　－漢方・生薬の最先端－」
（講師４名，参加者300名）
12月　役員会・常任理事会

お知らせ

本会活動のますますの活性化のため、会員の皆様に終身会員へのご加入とご寄付をお願いしております。

１）終身会員：会費2万円、昭和48年に開設（現在約50％加入）会員名簿を更新のたびに無料にて配布致します。
２）寄付：一口２千円から受け付けております。特に終身会員会費が１万円であった会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。
３）会報、名簿等への広告掲載をご希望の方は薬友会までご連絡をお願い申し上げます。

上記いずれのお申し込みも＜郵便振替口座0015-5-551796千葉大学薬友会＞にお願い申し上げます。

来年末に会員名簿の発行を予定しています。個人情報保護のため、名簿への記載を望まない事項がありましたら、薬友会まで御連絡下さい。(yaku-yuu@p.chiba-u.ac.jp)

住所・勤務先の異動及び変更があった方は、会員名簿に添付されている異動通知連絡カードに必要事項を記入の上、薬友会名簿係までお送り下さい。変更は上記メールアドレスでも受け付けております。

各種委員会名簿

総務委員会　○石橋正己、荒井　緑、當銘一文、村上泰興（S36)、戸井田敏彦（前委員長：アドバイザー）
財務委員会　○山浦克典、上野光一、村上泰興（S36)、山崎真巳（元委員長：アドバイザー）
名簿委員会　○千葉　寛、小林カオル、降幡知巳、村上泰興（S36)、根矢三郎（前委員長：アドバイザー）
事業委員会　○高山廣光、北島満里子、小暮紀行、小川通孝（S34)、斉藤和季（前委員長：アドバイザー）
会報委員会　○斉藤和季、山崎真巳、吉本尚子、根矢三郎、星野忠次、鈴木優章、小川通孝（S34)、加藤文男（S47)、角田範子（S52)、小林　弘（前委員長：アドバイザー）

（○印；委員長）

千葉大学SEEDS基金について

このたび千葉大学SEEDS基金が創設されました。本基金（＝無限の生命力を象徴する種子）はチャレンジを支え、人を育てる基金として、優秀な学生への教育・研究生活にかかわる経済的支援などに活用されます。皆様からのあたたかいご支援をお待ちしています。詳しくはホームページ（http://kikin-chiba-u.jp/）をご覧ください。

第19回　千葉大学大学院薬学研究院･薬友会　生涯教育セミナー･(宮木高明セミナー)開催のお知らせ

日　時：平成22年７月３日（土）　13：00～17：20

場　所：千葉大学　大学ホールけやき会館（１階大ホール）
（〒263-8522　千葉市稲毛区弥生町1-33）

主　催：千葉大学大学院薬学研究院・千葉大学薬友会

共　催：日本薬剤師研修センター
（参加者には日本薬剤師研究センターより３単位が認定されます。）

後　援：猪之鼻奨学会

テーマ：**「身近な“やまい”とたたかう ― 薬学研究者の挑戦」**

13:00～15:40　**1）ビタミンＤと骨粗鬆症 ― あなたの骨は大丈夫？**
山本　恵子　先生　（昭和薬科大学　教授）

2）がんと向き合う ― 薬でどこまで治せるか
齋藤　直樹　先生　（明治薬科大学　教授）

3）新しい糖尿病治療薬の研究開発 ― 現状と課題
川邊　良樹　先生　（中外製薬㈱　研究本部　創薬研究第一部長）

16:00～17:00　**4）宮木高明記念セミナー**
神秘の生命物質ポリアミンのよもやま話
五十嵐一衛　先生　（千葉大学名誉教授　㈱アミンファーマ社長）

懇親会：17:10～18:30　けやき会館内　レストラン　コルザ

千葉大学校友会総会のご案内
平成22年度校友会総会は平成22年10月、けやき会館で開催されます。開催時間等の詳細は千葉大学ホームページに掲載予定です。

セミナー参加費　1,500円（事前予約）2,000円（当日）

懇親会参加費　2,500円（事前予約）3,000円（当日）

参加申込み方法　郵便局備え付けの払込書にて下記の郵便振替口座に参加費をお送金ください。払込書の通信欄に、氏名、住所、卒業年を必ずご記入ください。［事前予約締切：平成22年６月25日(金)］

郵便振替口座：00150－5－551796　千葉大学薬友会

本セミナーに関するお問い合せは薬学研究院（生体機能性分子研究室）高山廣光までお願いいたします。
（電話：043-290-2901　E-mail:takayama@p.chiba-u.ac.jp）

※本年度は薬学部卒業後35年の1975年（昭和50年）３月、卒業後45年の1965年（昭和40年）３月に卒業された方々をご招待いたします。該当されます皆様は、当日受付にお申し出下さい。
西千葉キャンパス見学のご案内：卒業生と一緒に参加される小・中・高校生及び大学生については参加費無料といたします。又ご希望があれば、西千葉キャンパスをご案内いたしますので、事前にお申し込みください。

編集後記

来年3月には亥鼻に薬学研究院新棟第二期棟が完成予定ですので全研究室が移転します。そのため今号が西千葉からの最後の会報になります。ご寄稿いただきました会員の皆様、ありがとうございました。また、本文に記載がありますように、120周年記念事業も予定されています。皆様からの記念事業へのご寄付をよろしくお願い申し上げます。　（斉藤　和季）

20号会報編集委員
斉藤和季（委員長）、山崎真巳、吉本尚子、根矢三郎、星野忠次、鈴木優章、小川通孝（S34）、加藤文男（S47）、角田範子（S52）、小林　弘（前委員長）